

知りました。しばらくして部室を訪れると、楽器経験者というだけで入部を強く勧誘され、考える間もなく(ほぼ強制的に)入部してしまいました。でも、良かったと思っています。大学の4年間、定期演奏会を始め各種演奏会において、多くの皆さんに音楽を楽しんでいただくことができました。最終学年では、コンサートマスターとしてオーケストラ全体を引っ張っていく重要な役目も担うことができ、有意義で充実した時間を過ごすことができました。今振り返ってみると、オーケストラの活動を通して音楽の基礎が身に付いたと思っています。

先程、「実は、将来とんでもないことになります」と書きましたが、このことについて触れたいと思います。人間の体は、子どもから成人になるまで大きく成長します。身長も高くなりますし、腕の長さも大きく変化します。ヴァイオリンという楽器は体に合わなければ演奏できません。当然、子どもの時は小さな楽器、大人になると大きな楽器が必要になります。したがって、私もフルサイズの1/4、1/2、3/4という段階を経てフルサイズの楽器に至りました。

その上、オーケストラ部に入ったことにより楽器を買い換えたので、スタートは1万円の楽器でしたが、結局は高い買い物になってしまいました。



### 学校における音楽との関わり

大学を卒業し最初に赴任した学校が、宇治市立北宇治中学校でした。オーケストラ部はありませんでしたが、吹奏楽部がありました。顧問の先生からのお誘いもあり、顧問を務めることにしました。当時の北宇治中学校の吹奏楽部は、できたばかりで部員も少なくコンクールにも出場していませんでした。何とか素晴らしいバンドを作ろうと、土曜日も日曜日もなく毎日練習に明け暮れました。まさに、今学校が取り組んでいる働き方改革に逆行していたと言えます。でも、生徒は厳しい練習にもよくついてきてくれ、私自身楽しかったですし、やり甲斐もありました。また、音楽のことも一杯勉強しました。その結果、少々時間はかかりましたが、コンクールで金賞を受賞できるバンドになりました。そして、北宇治中学校で10年過ごした後、宇治中学校へ異動しました。

宇治中学校の吹奏楽部は、北宇治中学校と比べてはるかに長い伝統と素晴らしい実績があり少々プレッシャーを感じながら音楽作り、サウンド作りに取り組んでいました。現在の宇治中学校は、マーチングにも取り組まれ、全国大会において素晴らしい成績をあげられていますが当時はマーチングには取り組んでおらず、定期演奏会とコンクールをメインに活動していました。コンクールでは金賞は取れるのですが、結局関西大会へは出場することができませんでした。今思っても本当に残念ですし悔しいです。厳しい練習に耐え、私を信頼して着いてきてくれた生徒とともに、関西コンクールのステージに立ちたかったです。でも、もう一つのメインの定期演奏会は、文字どおり自分たちの手で作り上げるステージですので、OBや保護者の皆様の協力を得ながら、「色々と趣向を凝らした、楽しくて心温まるステージを観客の皆さんにお届けできたのかな」と思っています。

以前の私は、音楽作りにおいて、音程やリズムが合っていることが最も大切で、このことばかりに意識がとらわれていたように思います。この頃から、音楽を楽しむこと、そして、観客の皆さんに私たちの音楽を楽しんでもらうことや感動を呼ぶことの大切さ、そのための手法や心構えを学びました。